

検査項目名	検査時間	内容説明
心機能をみる検査		
心電図	約5分	手首・足首・胸に電極を取り付け、心臓が動くときに発する小さな電流を記録します。（機械から電気が流れてくることはありません。）不整脈・胸痛・動悸・呼吸困難・失神などの症状の診断、手術前の心臓機能評価、心臓ペースメーカーが正しく働いているかどうかの評価などを行う検査です。
ホルター心電図	24時間	携帯可能な機器を取り付けて24時間の心電図を記録し、普段の行動の中で心電図がどのように変化するかを記録します。不整脈・動悸・息切れ・めまい・失神・胸痛・治療効果の判定、ペースメーカーの評価などを行う検査です。検査中、シャワーを浴びることは可能ですが、入浴はできません。
マスター負荷心電図	約30分	凸型階段を用いて、年齢・性別・体重に応じて決められた回数を昇り降りします。この運動により心臓に負荷を与え、運動直後から心電図の変化を観察します。安静時の心電図では発見できないような潜在性の心臓病などを、運動負荷により誘発させることを主な目的としています。
トレッドミル	約30分	電動式で動くベルトコンベアーの上で歩行やジョギングを行い、その間にどんな症状が起こるか、あるいは心電図や血圧にどんな変化が起こるかをみる検査です。主に、心臓病（狭心症など）の診断と重症度の判定のために行います。
心臓超音波検査 （心エコー）	約30分	超音波を用いて、心臓の動きや大きさ、弁の動きなどを調べ、心臓疾患の診断や心臓機能の評価を行います。弱い音波を使用しているため、人体への影響はありません。
肺機能をみる検査		
肺活量	約5分	胸いっぱい大きく息を吸い込み、吸い込んだ息を吐けなくなるところまで吐き切り、肺活量を測定します。また、胸いっぱいに吸い込んだ息を勢よく一気に吐き切り、1秒間に吐ける量を測定します。できるだけ大きく息を吸い込んだり、一気に息を吐き出したるため、患者様の協力を必要とする検査です。
血管の検査		
ABI	約10分	動脈硬化の検査です。寝た状態で両足首と両上腕の血圧を測り、ABI 値とPWV 値を測定します。ABI とは「足関節上腕血圧比」の略で、両上腕と両足首の血圧を測定することで、血管の狭搾（詰まり）の程度がわかります。PWV 値は「脈波伝搬速度」の略で、心臓から押し出された血液により生じた拍動が、血管を伝わって手や足に届くまでの速度のことです。血管が硬いほど速度は速くなります。

検査項目名	検査時間	内容説明
頸部血管超音波検査 （頸動脈エコー）	40～50分	頸動脈の血管や血液の流れを調べる検査です。頸動脈は脳に血液を供給する血管で、この血管の走行や血管壁の様子、血液の流れを検査し、動脈硬化病変の有無や程度を調べます。また、脳血管障害の発症予測や予防、治療に役立てます。弱い音波を使用しているため、人体への影響はありません。
脳・神経の検査		
脳波	1～2時間	主に脳の活動状態を頭皮上から記録します。脳の活動状態とは、通常の生活を行っていくうえでの機能的な働き具合のことで、脳細胞が活動しているとき、その状態に応じた脳波が記録されます。脳の働きに問題があると、脳波が変化したり乱れたりします。この波形から、脳に関する病気を診断したり、治療の効果を確認します。無害無痛の検査です。
神経伝導速度検査 （NCV）	30～60分	手足の運動神経・感覚神経に与えた刺激が、神経の中を伝わる速度を測定し、手足の神経に障害が生じていないかどうかをみる検査です。神経の走行しているすぐ上の皮膚から弱い刺激を与えるため、若干痛みや不快感を伴いますが、人体への影響はありません。
消化器の検査		
腹部超音波検査 （腹部エコー）	約15分	超音波を体に当て、その反射を画像として描出し、臓器の大きさ、炎症の有無、腫瘍の有無、形態異常などを調べます。弱い音波を使用しているため、人体への影響はありません。 検査当日の朝は絶食です。白湯、水の制限はありませんが、検査1時間前より水分摂取は禁止です。尿を溜めた状態で検査を行うため、検査前1～2時間はできるだけトイレは控えて下さい。
聴力の検査		
聴力検査	約20分	人間の耳に最も聞こえやすい周波数の音を中心に、125～8, 000Hzまで7種類の音を聞いて、聞こえる最小限の音の大きさを測定します。これにより、聴力障害の有無や程度、難聴の種類を判断します。加齢による変化もあり、50歳以上では4, 000～8, 000Hzの領域（高音）で聴力低下がみられます。
聴性脳幹反応 （ABR）	1～2時間	ヘッドホンから出る音を聞いて、聴覚に関与する神経系に誘発される信号を記録します。検査の間、何も気にせず寝ているだけで、特に痛みもありません。小児の検査では、長時間の安静が保てないため、眠った状態で検査を実施します。主に聴力の評価のために検査を実施しますが、脳幹機能の評価や意識障害の予後評価にも用いられます。

検査内容についてご不明な点は、生理検査室までお問い合わせ下さい。